

中山間地域農業の課題と今後の展望

The agricultural subject and the future view in the hilly and mountainous area

○高橋幸照*

Takahashi Yukiteru*

1. はじめに

農事組合法人元丈の里営農組合は、R3より、スマート農業実証プロジェクトに参画し、獣害対策にICTツールを導入することにより捕獲作業の改善と食害被害を減らす試みをスタートさせた。本プロジェクト参画を契機にスマート農業の技術に触れ、このような技術を将来にわたって当地にどのように活かすことができるのか仲間と議論する機会に恵まれた。本報告では、そうした経験を踏まえ、中山間地域農業の課題と今後の展望について述べる。

2. 農事組合法人元丈の里営農組合の取組

農事組合法人元丈の里（げんじょうのさと）営農組合は、中山間地域である三重県多気町波多瀬地区において、米麦大豆作付による水田活用と農産物加工に取り組んでいる。その名は、日本草本草学の先駆者である「野呂元丈」の生誕地であることにちなんでおり、運営する交流施設「元丈の館」では、薬草・薬樹を活用した商品開発や足湯の提供、地元野菜なども扱う直売所を開いている。さらに、旧波多瀬保育園施設を6次産業施設「元丈の里 ゆめ工房」として有効活用し、加工、近隣直売施設への出荷・販売、交流事業等にも取り組んでいる。営農組合では、このような活動を通じ、将来も地域の

表1 農事組合法人 元丈の里営農組合 取組のプロセス

時期	出来事	内容
2008年	元丈の里営農組合設立	○旧土地改良区役員を中心に「元丈の里 営農組合」を設立 ○品目横断的経営安定対策が施行されたことを受け地区の水田を3ブロックローテーションにし麦・大豆の作付を始める
2010年	6次産業施設 元丈の里 ゆめ工房設立	○廃園となった波多瀬保育園を活用して農産物の加工、販売(米粉商品・漬物など)や都市と農村の交流を目的に『元丈の里 ゆめ工房』を運営開始
2012年	地産地消型小水力発電(彦電)の活用と交流人口の促進	○立梅用水土地改良区と連携し用水を活用した地産地消型小水力発電(彦電)を開発し定温庫や外灯などに活用 ○元丈の里 ゆめ工房にて視察の受入や親子農村体験の実施
2015年	農事組合法人元丈の里営農組合設立	○町の支援を受け組合員の共同の利益を増進することを目的に任意組織から「農事組合法人元丈の里営農組合」に法人化 ○人・農地プランの実質化を図るべく農地中間管理機構を通じ農地の利用集積を始める
2018年	合同会社 元丈フォレスト設立・交流施設「元丈の館」運営開始	○営農組合の役員を中心に関連会社として「合同会社 元丈 フォレスト」を設立し町の指定管理者制度を受け交流施設「元丈の館」を運営開始 ○営農組合で生産した野菜や米粉の加工商品を館内の直売コーナーで販売 ○薬草・薬樹を活用した商品や足湯が好評で交流人口が増加
2021年	スマート農業実証プロジェクト参画	○農業インフラの多目的活用による多面的機能発揮と強靱な中山間農業のための技術体系の実証(代表:三重大学)
将来	スマート農業の推進と地域の将来	○営農組合員の高齢化、人出不足を補うスマート農業の推進 ○地域の特性を活し、活性化すべきスマート農業の推進 ○増え続ける獣類の食害を防ぐスマート農業の推進

*農事組合法人元丈の里営農組合

Agriculture union corporation GENJO-NO-SATO

キーワード: 中山間地域, スマート農業, 獣害対策

